

札幌市立新光小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.shinko-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態

平成19年度から始まった「新光雪あかり村」は学校行事として扱い、指導を行ってきた。また、学校・PTA・地域の町内会からなる「心豊かな新光の子を育てる会」の主催で、2月には「新光雪あかり村(夜の部)」を開催している。「新光雪あかり村」は学校行事のみならず、地域の一大行事としての役割を果たしている。

平成22年度からは、生活科や総合的な学習の時間との関わりを強めていくことを踏まえ、本校の教育課程に位置付けた。

2. 実践 1

① 単元名・題材名

全学年 学校行事「新光雪あかり村」(4時間扱い)

② 目標

- ・雪とふれ合う中で冬の楽しさを味わい、寒さに負けない体をつくる。
- ・雪明り村の完成を喜び合い、全校児童の連帯感を深める。
- ・学級の仲間や異学年の友達と関わり合いながら、協力して活動する。

③ 取組の様子

A 雪像づくり開始

行事の時数の他に、1・2年生は生活科を、3～6年生は「総合的な学習の時間」を利用し雪像づくりに取り組んだ。雪像にはろうそくを入れる穴をあけるようにした。各学年ともたくさん子どもたちが外に出て、協力して雪像づくりに取り組んでいた。

B 雪あかり村完成集会

ふれあい委員会主催で雪あかり村の完成を祝う式典が行われた。完成までの道のりを記録したスライドショーの上映や点灯セレモニーなどが行われ、全校児童の連帯感を育んだ。

C 雪あかり村(夜の部)点灯式&花火

放課後の活動は学校・PTA・地域からなる「心豊かな新光の子を育てる会」の主催で行われた。チューブ滑りやろうそくの点灯式が行われた。最後には冬の花火が打ち上げられ、会場にいた方々から大きな歓声があがった。



④ 実践のまとめ

今年で5回目の開催になった「新光雪あかり村」は地域の方々も楽しみにしている一大行事である。今年も地域・保護者・児童を合わせると、1,000人を超える人が参加し、盛大に終えることができた。毎年継続してきたこと、少しずつではあるが改良を重ねてきたことの成果であるといえよう。

今年度の実践では、事前にトレイを使った板氷やバケツを使ったアイスキャンドルをたくさん作っておき、雪像にあけた穴の風除けとして使用したり、学校前の道路に点灯させたりするなど、冬の夜を彩った。今年、風もなかったため、火をともした約1,000個のろうそくは途中で消えることもなく、最後まで参加者の目を楽しませていた。

3. 実践2

① 単元名

3年生 総合的な学習の時間 雪の結晶「不思議・発見をさがそう」 (15時間扱い)

② 目標

- ・雪の結晶について興味関心をもち、疑問を見付けたり、新たな発見をしたりしながら、課題を解決することができる。
- ・適切な器具を活用して雪の結晶を観察し、イラストに描いたり、気付いたことを分かりやすくまとめたりすることができる。

③ 取組の様子

A 雪の結晶の形ってどんな形

はじめに、雪の結晶の形を予想させた。六角形の他に丸や他の多角形を描く子が多くいた。そこでインターネットで雪の結晶の形を調べさせた。次に、雪の結晶を実際に観察する方法を知り、実際に降ってきた雪をとけないうちにルーペで観察し、結晶のイラストを描く活動を通して雪の不思議さを体験した。



B 雪の結晶「不思議・発見」を発信しよう

観察で不思議に思ったこと、気付いたこと、分かったことを話し合い、さらに疑問に思ったことや発見したことをイラストと文章でカードにまとめ、友達と紹介し合った。「なぜ六角形以外の結晶があるのか?」「なぜ白いのか?」等、疑問が出された。



C 私の考えた雪の結晶

これまでの学習で雪の結晶は基本的に六角形になることや一つ一つ違う形をしていることなどを学んだ。学習のまとめに自分が考えた雪の結晶を、折り紙を使って表現した。

④ 実践のまとめ

子どもたちにとって雪は身近すぎて、今まで気にも留めていなかったが、ベルベットを貼った板の上に降ってきた雪をのせ、ルーペでのぞく「雪の世界」に子どもたちは強い関心を示していた。雪が降った日には自ら外に雪の結晶の観察に出て行く子も増えた。結晶が見えやすい日、見えにくい日などの違いから雪の質に目を向けるようになったり、天候と降雪の関係に関連させて考えることができるようになったりしてきた。

